

多
数
の
参
加
者
以
外
の
方
も
参
加
下
さい

石上露子を語る集い

2016年度市民公開講座

9月11日(日) 午後1:30~

開場午後1:10

富田林市立中央公民館 講座室

講師：萬谷 順一

演題 古家物語 杉山好彦著



石上露子を語る集いは毎月会報「小板橋」を発行しています。中央図書館に保存されていますのでご覧ください。

石上露子(本名杉山タカ)は、類い稀な美貌と才知のひとであったようです。彼女の25歳(1906)の夏の写真は、露子の代表的なポートレートですが、手に薄田泣菫(1877~1965)の第4詩集『白羊宮』を抱えています。この詩集は1906年5月刊ですから、刊行されるとすぐ買ったのでしょう。年輩の人は「ああ大和にしあらましかば」という詩が、高校の教科書に出ていたのを覚えておられると思います。高踏的な象徴詩集を好んで読む露子は、豊かな文学的感覚の持ち主であったといえます。露子は1903年10月から、与謝野鉄幹の主宰する新詩社の「明星」に短歌や詩、美文を発表していました。

「石上露子を語る集い」は、毎月の第2日曜日に例会をもち、四天王寺大学名誉教授/石上露子を語る集い代表宮本正章をはじめ、会員の誰かが露子作品の一つや関連事項を調べて発表し、相互に意見を交換します。発表後は歌会をもちます。露子の作歌の苦心を体験してみようと始めました。この歌会も「集い」の魅力の1つになっています。研究発表や短歌は機関紙「小板橋」に掲載します。

ご興味・ご関心のある方は、下記までご連絡して下さい。



参

加

無

料

定員40名

問合せ先：「石上露子を語る集い」事務局 大石照子 090-2281-9217